



来年以降となりました。  
現場を見ながら、フロント業務もというのは、教員をしながらではなかなか難しい状況です。ただ、本気でやるならば、そのための組織作りもしなければいけませんね。これまで、選手として入って引退したらチームから離れる、という感じでしたが、今は離しません(笑)。これからこそ、人が必要になりますからね。

たた私は、来年で監督として10年になるのです。クラブの歴史を見ても、こんなに長くやつた人はいらっしゃいません。長くやることでいいこともあれば、悪いこともあるなど思っているところです。そういう意味でも、選手、指導者だけでなく、スタッフとしても一般の人に入つてもらいたいとも思っています。そしてクラブのスピリットを受け継いでほしいと考えています

—さて、体制も重要ですが、ステップアップするには、選手のレベルアップが必要でしょう。埼玉には多くの有望選手がいると思います。その中で、クラブとしてどういう選手を求めていますか。

「まずは気持ちですね。気持ちがないと大成しません。例えば、大宮アルディージャにいた平本(大介・FW。コーチ兼任)は、うちに入つてさらにうまくなつたと思うのです。うまくなることを覚えたので、まだ現役でやっています(笑)。こういう体験をしてほしいのです。そのためにも、どんなことがあっても続けようという気持ちが大事なのです。

そしてプレーですが、今、サッカーを取り巻く環境は変わっています。これまでならば選手のミスに対して指導者は『どうしてできないんだ』と言つていましたが、今は『なぜそのプレーを選択したのか』と問いかけています。選択した上でのミスは仕方ありませんからね。その上で僕らとしては、自分でプレーを選択できる選手を求めています。チームプレーを理解した上で、『こういうプレーをしたい』

という自分の特徴を出してほしいのです。そういう意志を持った選手はなかなかいません。

最後に、当たり前のことですが、挨拶ができないといけません。これはクラブとしての伝統でもあります。当たり前のことができることがベースです

—人間として自立していないと、プレーで自分を表現することは難しいですね。全体的に見てもうまくなつてることは間違いないけれど、面白いとか凄いと思える選手が少なくなつたような気がします。

「今だと、わざとスペースを空けておいて、そこに入らせてボールを奪うというような工夫がないですね。みんな『とにかくプレッシャーだ』と言つっていますから。私自身、あまり動かなかつた選手でしたので、どうしたら少ない運動量でボールを奪えるかを考えたものです。相手を騙すといふか、裏をかくというのですが、そういうプレーを選手が見せてくると『コクが出てきたな』と思うのです」

—「コク、ですか？」

「30歳を過ぎないと見えてこないものかもしれません。教えづらいことですが、社会人のチームであれば、コクが出てきた選手と一緒にプレーすることで理解できるのかもしれません。見ていて『全然動かないのに、どうしてボールが取れるの? どうしてキープできるの?』と思うことがあります。そんなことはありません。生活面でしっかりと歩いて、サッカーに対しての気持ちがあれば、ぜひ送り出してください。

—そして我々は、もつと高校年代と練習試合をしたいと思っていました。『リトリートして欲しい』、『3バック』などのリクエストにも応えることができます。うまく使ってやつてください。敷居は高くありませんから(笑)。ご連絡をお待ちしています

### ●JFLへ、その先へ

—続けていくことの中でも、見えてくるものがある。一つが自分自身の向上であり、組織としての成長もそうだろう。さいたまSCは、この先にあるJFLを目指す。続けていく中で、JFLが到達点なのか、通過点なのかどうかを感じるためにも。

—実際、何人かはこのクラブからJFLに行き、活躍しています。また技術だけでなく教育的指導もしますから、人間的にも成長していくつて思っています



—ただ、社会人チームとして、選手一人ひとりの自覚も重要ですね。

「お金ももらわず、なかなかトレーニングする時間も無い中で、プロに勝とうとしていますから、実際はプロよりも厳しい思います。全体練習は水曜日と土曜日だけ。セルトレーニングが一番のトレーニングだと思っています。

ただその厳しさを乗り越えられると、得られるものは大きいのではないかでしょうか。JFLだと中途半端な気持ちでは挑めませんが、関東リーグならば、『まだまだやるんだ』という気持ちがあれば、挑めると思います。また、そういう選手たちと向上しながら、一緒にJFLに行きたいと思っています

### ●最後に一言、お願いします。

「メッセージを送りたいのは、選手にだけでなく、高校の指導者の皆さんにもです。ですから、最後は指導者の皆さんへ。よく『うちの選手では、さいたまSCで通用しない』と聞きます。そんなことはありません。生活面でしっかりとやって、サッカーに対しての気持ちがあれば、ぜひ送り出してください。

—そして我々は、もつと高校年代と練習試合をしたいと思っていました。『リトリートして欲しい』、『3バック』などのリクエストにも応えることができます。うまく使ってやつてください。敷居は高くありませんから(笑)。ご連絡をお待ちしています

—続けていくことの中でも、見えてくるものがある。一つが自分自身の向上であり、組織としての成長もそうだろう。さいたまSCは、この先にあるJFLを目指す。続けていく中で、JFLが到達点なのか、通過点なのかどうかを感じるためにも。